

## 親愛なるお客様

清秋の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さわやかな秋晴れの続く今日此頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、私、ジャン・ルック・アルフォンシは2023年7月1日付けで最高執行責任者・社長に就任いたしました。また営業本部長を兼任し、営業部門およびマーケティング部門の活動を指揮します。

エアバス・ヘリコプターズでは23年間にわたり、ヨーロッパ、アジア太平洋、南アメリカにおいてカスタマーサービス、営業、プログラム、企業経営など様々な部門で経験を積む機会に恵まれました。就任前はブラジルにあるエアバス・ヘリコプターズ子会社のヘリプラスで社長を務めました。

そしてこの度日本で働く機会をいただき光栄であり嬉しく思います。従業員と力を合わせお客様の運航に対し、品質・安全に重きをおいたサポートを提供してまいります。

今後とも国内の航空産業界と強い協力関係を築き、日本の航空業界の発展に貢献してまいります。

貴社の更なるご発展を心よりお祈り申し上げます。

今後とも変わらぬお引き立てのほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

エアバス・ヘリコプターズ・ジャパン株式会社  
最高執行責任者・社長 ジャン・ルック・アルフォンシ



最高執行責任者・社長 ジャン・ルック・アルフォンシ

## CONTENTS

### 製品／PRODUCT

H135型機1,500機納入を達成

### サービス／SERVICE

邦文飛行規程改訂状況について

### 飛行の未来／PIONEERING

エアバスグループのCSR活動

### 訓練／TRAINING

H160 FFSによるJCAB実地試験

2023年度設定訓練コース

### 航空安全／AVIATION SAFETY

1. 安全推進活動
2. ヘリコプターの安全情報

### インフォメーション／INFORMATION

ご意見募集中

## H135型機1,500機納入を達成



2023年8月30日、欧州で最も著名なヘリコプター救急サービス(HEMS)事業者の1つであるADAC Luftrettung社が、H135とH145で構成されるフリートに1機追加され、1,500機目のH135が納入されました。このマイルストーンは、H135がHEMS市場のマーケットリーダーであり、捜索救助や洋上風力発電所のメンテナンス、救急搬送など多様な任務に世界中で選ばれるヘリコプターであると実証された証です。

ブリティッシュコロンビア州で山岳救助を専門とするBlackcomb Helicopters社のチーフパイロット、Geoff Doran氏は以下のように述べました。「H135で最も印象に残っているのは、エアバスの施設、フォート・エリーで機体を引き取り、西海岸まで飛行したときです。オンタリオ

州からグレートプレーンズを越え、ロッキー山脈や海岸山脈を越えてブリティッシュコロンビア州まで、カナダの全地域を飛行しました。あの近代的で素晴らしいヘリコプターでカナダ全土を飛び回ることができたのはこの上ない幸運でした」。

米国ウェスタン・ペンシルバニア救急医療センターのJames Houser社長兼CEOも以下のように述べています。「重症患者を搬送していたころのことを鮮明に思い出します。オークランドの学術病院の13階から、ヘリポートがよく見えました。新米だったため、自分が何を見ているのかわかっていなかったが、H135だけは他とまったく違いました。見た目やスタイリングが魅力的で、近代的な機体だとわかりました」。

ÖAMTCエアレスキュー隊の運航責任者であるPeter Fleischhacker氏が、山岳地帯におけるH135による人命救助の経験について語ります。

同隊は、夏は40℃、冬はマイナス20℃にも達するオーストリアの山岳地帯で活動しています。ヘリコプターは平均海拔10,000MSL(平均海面)の高度を飛行することもあります。パイロットはまた、季節による乱気流や風、霧など、さまざまな気象にも直面します。同氏は、H135の高い信頼性とあらゆる状況に対応する能力を評価しています。例えば、オートパイロット機能やナイトビジョン・ゴーグルに対応したコックピット、エンジンデータを1つのインジケーターで表示するファースト・リミット・インジケーター、ナビゲーションシステムなどは、パイロットの負担を減らし、状況認識を高めます。H135の仕切りのないキャabinは、十分な積載量と相まって、HEMSサービスの基準機となるだけでなく、捜索救助ミッションでも重宝されています。大型のスライド式ドアと後部クラムシェルドアは、地上での患者の積み込み・積み下ろしを容易にし、内包型テールローターのフェネストロンは安全性を高めています。Fleischhacker氏は次のように述べています。「ある学生が飛行訓練の最後に、輝く目で私を見て、『ローターブレードのついたノートパソコンをありがとうございました』と言いました。これはH135を端的に表しています」。

ドイツ語圏で最大級のヘリコプター会社であるHTMは、現在ドイツ湾岸とフランスの大西洋岸にある12の風力発電所にサービスを提供しています。同社のマネージング・ディレクターであり、現役パイロットでもあるBernd Brucherseifer氏が、H135による風車でのホイスト作業がどのようなものかを語っています。

H135は、HTMで人員輸送やHEMSから雪崩の発破作業まで、多くの任務を担っていますが、主な役割は、洋上風力発電所の運営とメンテナンスで、サービス技術者を風車に運び、ホイストで降ろすことです。「洋上風力は非常に特殊な環境であり、性能、特に片方のエンジンに不具合が起きた(OEI)場合のOGE(地上効果外)ホバリング性能に関して厳しい要件があります。」とBrucherseifer氏は言います。このような要件があるため、ヘリコプターの選択肢は限られます。幸い、H135とH145の両方がその要件を満たしており、HTMの機体ラインアップにエアバス製品が多い理由になっています。

ドイツ湾上空は、乱気流や強風が多く、視界も限られることが多いため、信頼できるヘリコプターを持つことは必須条件です。H135のどこが気に入っているかと尋ねると、同氏はそのデザインと快適性を挙げました。「H135はルームシューズのようなもので、履き心地が非常に良いのです。何千回もの救助任務と数百時間の洋上ミッションをH135で飛びましたが、ヘリコプターに問題があったことは一度もありません。コックピットは、例えばアビオニクスや電気系統のスイッチはすべて同列上にあるなど、パイロットの労力軽減を念頭に設計されています」。

さらにH135は、石油・ガス人員輸送や水先案内人輸送など、洋上分野における40年以上の経験値があります。このヘリコプターの2種類のエンジン(サフラン・ヘリコプター・エンジン社のアリウス2B2+とP&Wカナダ社の206 B2)は、OEI時でも優れた性能とパワーの余裕をもたらし、また低燃費を実現しています。



## 邦文飛行規程改訂状況について

エアバス・ヘリコプターズ・ジャパンのホームページが本社と統合されたことに伴い、邦文飛行規程改訂状況表の掲載場所が変更となりましたのでお知らせします。

新URL: <https://www.airbus.com/ja/who-we-are/our-worldwide-presence/airbus-in-asia/airbus-in-japan>

上記URLへアクセスし、下部にある「ヘリコプターRFM改定状況表」の「↓ Download」をクリックすることで閲覧可能です。



## エアバスグループのCSR活動

エアバスグループは、世界、そして地域社会の一員としての責任を認識し、国連が掲げる持続可能な開発目標(SDGs)にコミットしております。

日本においては、2022年にCSR委員会を発足し、地域貢献及び次世代教育活動を実施しています。こちらに、その取り組みをご紹介します。



### ■あしなが育英会遺児奨学生に夏休み航空教室開催

7月28日、関西圏の小学生から大学生までのあしなが育英会遺児奨学生及び関係者12名に、エアバス夏休み航空教室を開催しました。参加者は、神戸空港事業所の工場見学およびフル・フライト・シミュレータを体験し、なぜヘリコプターが飛ぶか、ヘリコプターの任務や活躍について学びました。また、フランス、ドイツ、バングラデシュなど出身の従業員とも交流し、国際色豊かな環境で働くことについても学びました。航空教室参加後に、航空業界に従事するという将来の夢を決めた参加者もいたようです。参加者からのアンケートでは、夏休みの貴重な経験となったとコメントをいただきました。

(あしなが育英会レポートはこちらからご参照いただけます。)

<https://www.ashinaga.org/media/report/16313/>



### ■ 鶴沼海岸ビーチクリーニング

9月10日、神奈川県鶴沼海岸付近で、第2回ビーチクリーニングを実施し、エアバス・ジャパングループ東京地区に所属する20名が参加しました。

夏休み後の海岸はプラスチックゴミなど大量のゴミを収集しました。

### ■ 被服の寄付

9月25日から27日、社員の家庭で不要になった被服を回収し、特定非営利活動法人日本救援衣料センター(Japan Relief Clothing Center)を通じ、主にアジア・アフリカの貧困地域に送られます。

## H160 FFSによるJCAB実地試験

HELISIM社(仏)のH160 FFS(フル・フライト・シミュレーター)がJCAB(国土交通省航空局)の模擬飛行装置レベルDの認定を取得したことについて、前号(Newslatter #34)でご紹介致しました。

この認定取得から2ヶ月後の6月21日には、「回転翼航空機による模擬飛行装置のみを使用して行う事が出来る航空従事者技能証明の実地試験について」(国空航第3037号)に基づいて、H160運航会社様の操縦士2名がH160 JCAB実地試験をFFSで受験され、見事に合格されました。これは回転翼航空機では本邦初の快挙であり、また、H160においては世界初の事例となりました。

FFSは、実機の使用スケジュールや天候などで訓練スケジュールが影響を受けないため、訓練から実地試験まで計画的に新規ライセンスの養成が可能となります。また、事故のリスクがないことや航空機の非常操作が実機では訓練不可能な項目まで習熟できること、さらに航空燃料を消費しないためCO<sub>2</sub>削減にも寄与するなどのメリットがあり、飛行訓練の1つの在り方だと考えます。

今後は弊社でご提供するH160操縦士限定変更訓練の基準となる訓練プログラムになりますので、ご理解の程よろしくお願い致します。



## 2023年度設定訓練コース

2023年9月時点での訓練コース空き状況をご案内致します。ご興味のあるコースがありましたらお問い合わせをお願いします。

(お申し込みには受講要件を満たしている必要がございます。また最少催行人数は2名となっておりますので、これを満たさない場合は訓練を実施しない場合がございます)

各コースとも、訓練開始までに空席がある場合、弊社社員が聴講姓として参加する場合がございます(座学の最大受講人数は8名を基本としております)

### ■ 操縦士訓練

コース名		期間(日程は変更となる場合がございます)	受講要件	申込可能	備考
AS365	型式限定変更座学訓練 (N3またはN3+)	学科：2023年11月27日～12月7日予定 実機：別途ご相談	A	○	(注1)
AS365N3+	型式内移行訓練 (N2→N3+)	学科：2024年2月13日～2月16日予定 実機：別途ご相談 (1人当たり4.5時間)	A	○	(注1)
EC135	ガイドライン訓練 (T2+, P2+)	学科：2024年3月4日～3月12日予定 FFS：2024年3月13日～3月19日予定	A	○	(注1)

受講要件：

A：有効な技能証明書と航空身体検査証明書および陸上多発タービン機の等級限定

(注1)：座学訓練終了後、お客様基地でお客様保有の機体を使用した実機訓練が必要となりますが、日程は別途ご相談となります。

## ■ 整備士訓練

コース名		期間(日程は変更となる場合がございます)	受講要件	申込可能	備考
AS365N3	オートパイロット学科	学科：2023年10月11日～10月13日	B	○	AFCS 155D 向けコース
H135	ガイドライン訓練 (T3/P3まで)	学科：2023年10月11日～10月20日予定 実技訓練：2023年10月23日～10月27日予定 FFS試運転：1人当たり3回、2日想定、日程は別途 ご相談	A	△	(注1)
AS365N3+	一等航空整備士 OEM訓練 (座学+実技)	学科：2024年1月9日～1月29日予定 実技訓練：2024年1月30日～2月2日予定	C または D	○	(注2)

受講要件：

A：回転翼航空機ライセンス又は同等の知識(6ヶ月以上の整備経験を有する)

B：二等航空整備士(回)タービン機等級限定以上

C：二等航空整備士(回)タービン機等級限定以上を所有かつ一等航空整備士学科試験に合格、有効期間内であること

D：一等航空整備士(回)技能証明

(注1)：座学訓練終了後、お客様基地でお客様保有の機体を使用した地上試運転を実施し、ガイドライン訓練として受講をご希望の場合は別途お問い合わせください。

(注2)：座学訓練終了後、実地試験受験支援までの訓練などをご希望の場合は別途お問い合わせください。

(口述対策訓練、お客様保有の機体を使用した訓練など)

お問い合わせ先：カスタマーサポート部 西岡([hisao.nishioka@airbus.com](mailto:hisao.nishioka@airbus.com))

または各CSM(カスタマーサポートマネージャー)まで。



## 1. 安全推進活動

エアバス・ヘリコプターズ・ジャパンは、安全運航の確保に貢献すべく、引き続き関連省庁と連携した各種取り組みに積極的に参画しています。

また、航空安全ロードショーなど(安全文化の醸成/ヒューマンファクターズ訓練/コンサルティング)を開催し、安全文化の醸成活動を推進しています。(右図参照)

航空安全ロードショーなどの開催については、お客様のご要望などをお聞きしながら、計画及び開催をさせていただきます。

航空安全ロードショー等の開催実績(2023年8月末現在)

実施年	N：初回開催 R：繰り返し開催 A/C：各協会や各都市開催など W：Web会議 (回)		参加者数 (延べ人数)
2016～2023	134	N：53, R：30, A/C：24, W：27	3035

## 2. ヘリコプターの安全情報 (SAFETY PROMOTION NOTICE シリーズ)

エアバス・ヘリコプターズ社は、EASA Community Networkのメンバーとして安全推進活動を展開しており、過去に経験した事故やインシデント等に基づいた重要な教訓・安全情報などが、EASA Community Networkサイトの[\[Safety-Topics A-Z\]](#)にて紹介されております。

その中で、今回は、[「Technologies with Safety Benefits」](#)について紹介させていただきます。

事故要因の軽減に寄与する技術については、欧州航空安全計画(EPAS:2017)の中で取り上げられており、ヘリコプターの種類、使用年数、および運航用途によっては導入が必須である技術、また、必須ではないものの安全性や運用性の向上をもたらす可能性がある技術もあり、「利用可能な技術(3つのカテゴリー)」と「将来の技術」に分類して紹介させていただきます。

### 1. 利用可能な技術

#### 1) 状況認識の向上(障害物や地形との衝突防止)

- デジタルマッピングと飛行アプリケーション  
飛行を誘導する補助システム(MFD装置等へ障害物や地形のデータベース等を表示)であり、低空飛行や地形追従飛行で活用できる。
- ヘリコプター地形認識警報システム(HTAWS\*)  
地形データベースとナビゲーションシステムにより、優れた安全性と運用上の向上に寄与する。
- レーザーレーダー障害物および地形回避システム  
低高度の活動において、地形、風力タービン、樹木、高圧送電線などの障害物を検出することは課題であり、自動車の衝突回避システムで活用されている技術を活用する。
- Passive Tower-Based Obstacle Collision Avoidance System  
公共施設や送電線の鉄塔等に設置され、事前に設定された警戒区域に進入する航空機を検出し、警告灯を作動させて障害物を照らすことで、周囲への視覚的な影響を最小限に抑えながら、航空機に構造物への注意を促すシステム。
- Wire Strike Protection System(WSPS)  
低コスト、低重量、メンテナンスフリーであるワイヤーカッター

#### 2) 飛行/エンジン制御

- ボルテックスリング状態のリスク軽減  
ボルテックスリング状態での事故を回避するため、コックピットの警告システム(2レベル:状態に入る可能性がある状態/差し迫った状態)が開発/導入されています。
- Full Authority Digital Engine Control(FADEC)  
効率的なエンジンの作動、プログラムされた制限、エンジンの状態やメンテナンスに関する情報入手などが可能で長年にわたり広く普及している。
- 小型回転翼航空機向けの自動操縦装置  
飛行中の安定性の向上とパイロットの負荷軽減に大きく貢献する。

#### 3) 飛行データ管理(監視、事後分析、事故を防ぐための分析などの支援)

- Cockpit Voice and Flight Data Recorder(CVFDR)
- Cockpit Information Recorder System(CIRS)  
小型ヘリコプターを対象として開発されたVision 1000システム(軽量、低コストの内蔵型飛行データ記録装置:姿勢データ、位置と速度データ、コックピット画像と音声)であり、運航中の機体にも搭載できます。
- 自動展開型コックピット音声およびフライトデータレコーダー(CVFDR)  
浮かぶように設計された自動展開型 CVFDR(事故発生時にメモリユニット「排出」)は、航空機用救命無線機(ELT\*)を装備した軽量、コンパクト型であり、事故後の人命救助に貢献します。
- 事故/インシデント調査のための飛行データの評価と処理  
フライトデータモニタリング(FDM\*)として、転送された音声、ミッション、飛行データの分析(過去の飛行データとの比較、傾向、イベントなど)により、安全性向上に貢献します。

- 小型ヘリコプター用飛行監視プログラム(HOMP\*)

事前設定のイベントを自動検出する飛行監視システムであり、飛行の安全性向上のために海上輸送機や大型ヘリコプターに標準装備され、継続的に改善されています。

## 2. 将来の技術

ヘリコプターの飛行の安全性を高めるため、下記の新技術活用が推進されています。

- Collective Pull Down(CPD)  
メインローターの低回転警告信号によるコレクティブの引き下げにより、オートローテーションに入るメインローターの回転を維持する機能
- 緊急呼吸装置
- Helicopter Emergency Release Operator(HERO)  
緊急着水時に乗員・乗客の固定具を自動的に解除する機構(生存性の向上)
- 非常脱出訓練装置
- 衛星通信による高速データ通信
- Eye for Autonomous Guide and Landing Extension(EAGLE)  
ヘリパットのHマーキングを捉え自動着陸する機能
- 新技術を活用した標準操作手順の活用や訓練の実施(仮想可視化システム:Virtual realityなど)

### 【略語】

HTAWS : Helicopter Terrain Awareness and Warning Systems

ELT : Emergency Locator Transmitter

FDM : Flight Data Monitoring

HOMP : Helicopter Operations Monitoring Programme

これらの貴重な情報が、皆さんのヘリコプターの安全飛行に寄与することを願っております。

各種取り組みや安全情報などのご依頼やご質問がございましたら、担当者までご連絡お願い致します。

(担当者:エクスターナル・セーフティー・オフィサー:竹内(078-306-4476))



## ご意見募集中

Newsletterに関する皆様のご意見をぜひお聞かせください。

良かった記事、悪かった記事、今後のご要望など何でもけっこうです。

以下のアドレスまで(または受信されたメールに「返信」にて)お送りください。

ご意見お待ちしております。

[information.ahj@airbus.com](mailto:information.ahj@airbus.com) 編集担当者宛